

# ファイナル風

(現場)からの風

宮田守男

太陽に妬かれて  
灼熱地獄だと熱中症  
で搬送される人が各地  
で相次いでいる。夏の  
炎天の旨間を表す言葉  
「炎層」を、まさに美

感する毎日だ。山口誓  
子さんの周遊記「四季  
吟行」に「暑さを消す  
事はできないが、暑さ  
から逃げることはでき  
る」と吉野などを訪  
れた際の紀行文に書い  
てあるが、この炎層が  
続く様なら、今年の夏

が、67歳逝去の報道に、  
まだ67歳と思つたのは  
私だけでは無いはず  
だ。言葉では無く銃で  
の発砲は、民主主義に  
対する暴挙そのもの  
だ。経済学者の陣岡淑  
子さんの「戦争・暴力  
の反対語は何か。平和

が、個人が自分らしさ  
を發揮して自立してい  
るのが集団。個人の考  
えよりもその場に何と  
なく流れる空気に支配  
されているのが群れ  
だ」と定義した。選挙  
立候補に、前向きな挑  
戦に挑んだ人達に当落

見た方がいい」と書い  
ている。候補者をしか  
に目にする、選挙公  
報や各種報道を見た時  
と印象が大きく異なる  
場合が少なくない。  
選挙は立候補者や支援  
者だけのものでは無  
く、私たちの権利とし

## 民主主義を考えさせられる日々が続く

の自覚が激動  
の社会だから

は大北地域に多くの入  
連が涼を求めてやって  
くるのだろうと期待す  
る。

ではなく対話」と東京  
新聞のコラム筆洗さん  
が伝えたのが印象深  
かった。

を問わず今後の活躍に  
期待を込めたい。  
私たちも今回の選挙  
はどの様に考えていた  
のだろうか。フリーラ  
イターの山山理仁さん  
の選挙エッセー「コロ  
ナ時代の選挙漫遊記」  
に1番の教訓は「投票  
する前に候補者を実際

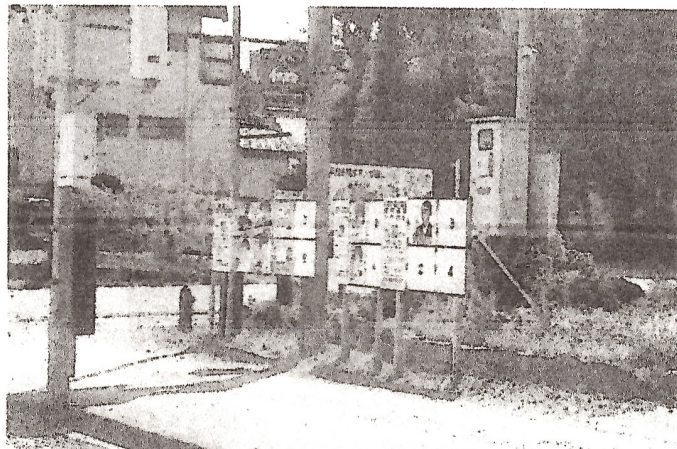
こそ求められているの  
だと考えさせられた。  
哲学者の三木清さん  
の「人生論ノート」で、  
人はどこから来て、ど  
こに行くのかを知る事  
ができない。人生は旅  
であり、未知のものへ  
の漂泊であると述べて  
いる。コロナ感染者の

9日安倍晋三元首相  
が演説中に銃で撃たれ  
て亡くなった。歴代最  
長政権を担うなど、多  
くの出来事が記憶と歴  
史に刻まれるのだろう

参議院議員選挙・白  
馬村長選挙で活発な議  
論が展開された。元小  
学校教師の菊地省三さ  
んは「集団と群れは国  
語辞典的では同意語だ

急増は気がかりだが、  
あてとない旅が、恋し  
く思える心理が、人に  
備わっているという。  
それらの旅人を快く受

け入れる地域であるべ  
きなだろう。  
(信州地域社会  
フォーラム会員・白馬  
村森上)



ポスター全盛期で無い今、選挙ポスター掲示板の必要の有無を考えてしまう